

2020年度

NO. 2



## 出前講座報告書



日時：2020年10月19日

開催場所：県北保健福祉事務所

### 🍀 テーマ「保健活動における面接・相談援助の書き方」

保健師をはじめ対人支援の専門職には、情報開示請求に堪える記録を書く、高い客観性と専門性が求められています。今回はSOAP記録を基本としたプロセス記録のポイントや、記録に必要なとされる要素、適した表現を学び、実際の記録の添削にもチャレンジしました。



### 🍀 講義の様子



講義では実際の開示請求事件の判例なども参考にしながら、開示できない記録を作らないという前提で記録をするためのポイントを学びました。記録は個人の備忘録ではなく、読まれるための記録であること、支援計画の進捗として書くこと、支援の判断に必要な内容を書くことなども学びました。

### 🍀 講師紹介



プリンシプル 職場の心理学研究所 所長  
福島県立医科大学  
放射線医学県民健康管理センター  
特任准教授 八木 亜紀子

#### 略歴

■ ウィスコンシン大学大学院マジソン校ソーシャルワーク修士課程修了。  
同志社大学大学院アメリカ研究科博士課程単位取得満期退学。アメリカで日英両語で個人、家族、グループ療法、リーダーシップ養成トレーニング、コーチングを提供。帰国後は、従業員支援、専門家養成、女性研究者支援、障害者の就労支援、東日本大震災による被災者支援に従事している。

#### 資格

- 米国カリフォルニア州臨床ソーシャルワーカー
- 精神保健福祉士
- 公認心理師
- 国際EAP協会認定EAプロフェッショナル

## 🍃 演習の様子

演習では、記録の添削を行いました。修正が必要と思われる部分に下線を引いたり、どの部分がSOAPの各項目に該当するかをチェックしたり、余白に訂正例を記入したりしました。参加された皆さんは、講義で学んだ内容を実践すべく、真剣に取り組んでいました。



## 🍃 アンケート集計結果

参加者は27名、アンケート回収は27名でした。

評価項目	そう思う*
<b>研修の資料や進行について</b> ● 配布資料は適切だった ● 時間配分は適切だった ● 進行は適切だった	96%
<b>講義について</b> ● 講義内容が理解できた ● 講義は今後の保健活動に役立つと思う ● 学んだことを同僚に伝えたいと思う	96%
<b>演習について</b> ● 演習は今後の保健活動に役立つと思う	96%
<b>あなたご自身について</b> ● 研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う ● 研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う	67%
	59%

## 参加者の声（一部抜粋）

・開示請求に耐えうる記録という視点で今まであまり記録を書いてこなかったので、とても勉強になりました。

・ついやってしまいがちな書き方等、自分に当てはまるものもいくつかあったので、今後、注意して記録していくようにしたい。

## 復習ポイント

- ✓ 記録は誰のために作るのか
- ✓ 記録が果たす機能とは何か
- ✓ 修正・改ざんできないようにするための書き方のポイントは

\*5段階評価：「1.全くそう思わない」～「5.大いにそう思う」の4と5の合計



本事業は、環境省委託事業「放射線健康管理・健康不安対策事業（放射線の健康影響に係る研究調査事業）」において採択され実施しております。

